

# CIEC 韓国レポート

- コンピュータ利用教育の今後を考える -

CIEC 小中高部会 武沢 護 大橋 真也 橋 孝博  
takezawa@waseda.jp

## 1 目的

わが国の「教育の情報化」推進政策により、中等教育ならびに高等教育にも新しい教育の流れが出てきた。CIEC では、国際交流活動の一環として、IT 教育先進国（以下では、「IT 教育」を便宜上使用するが韓国では ICT 教育ともいう）である韓国を訪問した。今回の目的は、韓国での高等教育ならびに後期中等教育における IT 教育の現状を視察し、現地の研究者や教育者との交流を深めることであった。期間は 2004 年 9 月 19 日（日）から 22 日（水）の 4 日間、訪問先は大韓民国全羅北道全州市にある国立全北大学（Chonbuk National University）、全州高等学校、全州女子高等学校の 3 校である。

## 2 韓国の IT 教育事情

### 2.1 教育制度

韓国の教育制度は、わが国といろいろ共通点があり、特に小学校（6 年）中学校（3 年）が義務教育、高等学校（3 年）大学（4 年）という制度は同じである。

### 2.2 IT 政策

韓国は 20 世紀末から国家的なプロジェクトとして IT 政策を積極的に打ち出してきた。

- 1995 KII プロジェクト発動
- 1996 情報化促進基本法制定
- 1999 国民情報化教育総合計画スタート
- 1995 - 2000

約 4000 億ウォン（370 億円）をかけ、全国 144 地域に高速インターネット回線を開通

- 2001 コンピュータ教育必修（小学校）
- インターネット高速回線の敷設完了（小学校、中学校、高等学校）

このように、韓国では 2001 年からの新教育課程において IT 教育が推進されている。

## 3 全州市について

訪問先の全州市は全羅北道の道庁所在地であり、人口約 60 万人で全羅北道の経済、文化、教育の中心として、古くは後百済の王都だった歴史をもつ韓国の中核都市の一つである。また、韓国料理を代表するビビンパブはここ全州が発祥の地とも言われている。

## 4 大学における IT 教育

最初の訪問先は全北大学校であった。この大学校は 13 の単科大学（日本でいう学部に対応）からなる総合大学である。ここでは、同行の小林教授（新潟大学）の旧知であるキム教授とリー教授の案内で同校の物理教育にお



けるコンピュータ利用教育や教養教育における情報教育の現状を見学した。特に、キム教授らの努力によって開発され蓄積されている Web 教材の充実ぶりには目を見張った。また、大学の教養課程での情報教育については、わが国と同様に、入学生の IT スキルの差や学習履歴の差が問題となっていた。

## 5 高等学校での IT 教育

市内の全州高等学校と全州女子高等学校を訪問した。両校はそれぞれ男子校、女子校として道内きっての名門校であり、ともに古い歴史と優れた教育を誇っている学校である。

### 5.1 情報インフラ整備

韓国全土に情報インフラが整備され、光ファイバーの高速回線の敷設に加え、各校のすべての教室に

液晶プロジェクタが設置されている。訪問した両校にも、液晶プロジェクタが黒板の横に設置され、各教室の教師卓にはPCが埋め込まれており、普通教室でのPC提示環境が整備されていた。わが国のミレニアムプロジェクトの韓国版といった趣だった。



教室のプロジェクタ（全州高）

## 5.2 必修の「情報」とe-learningの活用

高校1年生には必修で2単位の情報教育が展開されていた。見学した時の授業内容は、当日のニュース記事をもとにWebから情報収集して自分の意見をまとめるという学習活動だった。内容的にも日本の教科「情報」の活動と似ていた。

わが国の取り組みと異なる点は、韓国政府主導で進捗中のe-learning教材の活用であり、この教材が生徒たちの日常の学習に活用されていることである。わが国ではまだ高校段階では十分普及していないe-learningだが、韓国ではいち早くWeb上での学習コンテンツが開発され、活用されていた。特に、全州女子高等学校にはサイバー教室と名付けられた施設があり、我々が訪問したときはちょうど2年生がe-learning教材を使って物理の授業を受けていた。



e-learning 授業（全州女子高）

両高等学校とも高い大学進学率を誇る名門校だけに通常の授業はもちろんのこと、ITを積極的に取

り込んだ教育にも非常に熱心に取り組んでいた。そして、授業形態は伝統的なスタイルではあったが、何よりも生徒たちの授業中における真摯な態度が印象的であり、韓国の教育に対する意気込みが生徒たちに浸透している様子が見えた。

## 6 新しい教育スタイルへの挑戦

確かに両校ともe-learningを活用してはいたが、先のべたように「伝統的な学習スタイル」での活用であった。これは、韓国の大学受験事情が深刻に影響しているようで、受験勉強にe-learningを活用しているケースが多いようである。放課後などに生徒が自分の興味・関心に応じたものを視聴するという形式である。

今回は全州市という韓国の一都市の現状を視察しただけなので、このことだけで韓国の情報教育やコンピュータ利用教育の全体を論ずることはできない。ただ、IT教育を推進する国家的な施策として施設・設備面での充実が強力に推進されている状況を目の当たりにすることができた。そして、政府主導ではあるが、国の教育に対する姿勢とそれを支える教員、それに応える生徒たちという構図は、わが国よりも明確のように思えた。

また、ソウル市内での小学校や中学校では、ITを活用した新しいスタイルの教育実践が行われているようである。韓国も新教育課程になってから教育改革が日本同様、急ピッチで進行している。おそらく、新しい教育の試みも今後、続々と出てくるであろう。

## 7 日本・韓国から新しい教育の流れを

今後、教育界にあっても、例えば、日本、韓国そして中国などが連携して、コンピュータ利用教育、情報教育を含めた教育について議論したり、若い世代を交えながら交流を深めたりすることが必要になってくるであろう。そしてアジア地区から新しい世紀の新しい教育の流れが創り出せたらどんなに素晴らしいことだろうかと感じた。